

法政大學講義録

横田, 五郎 / 杉本, 貞治郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

23

(号 / Number)

特別法

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

24

(発行年 / Year)

1905-02-07



(明治三十六年十月十二日第三編(附録)發行)
(每月四回七月八日十八日二十八日發行)

明治三十八年二月七日發行

特別法ノ二十三

法政大學講義録

第百貳拾貳號

法政大學發行

特別法第二十三號目次

意匠法 (自三七) (完) 法學士 杉本貞治 耶

表紙及目次 四頁

非訟事件手續法 (自五七) 法學士 横田 五郎

雜報 ○戶籍吏カ要式ヲ缺ク届書ヲ受進シタル效果○戶籍上ノ氏名ヲ以テセル届出

稟告 本條ハ松浦ノ令村兩部併ニ差支アリタル爲メ紙數ニ不足ヲ生ジタルハ大數ヲ以テ補足スヘシ

090
1903
5-23

ト規定シタルハ必スシモ適當ト云フヘカラス之ニ反シテ類似意匠ニ在リテハ其ノ意匠即チ雜形中ニ原意匠ト兩立者ヘカラサル部分ヲ含ムモノナルヲ以テ原意匠消滅後ニ其存在ヲ許スコト能ハサルモハ亦何トカ原意匠ハ其消滅ニ依リテ何人モ之ヲ使用スルコトヲ得ベキモノトナルナリ然ルニ其類似意匠ノ侵害トナル恐アリ意匠專用權者之ヲ利用シテ又順次ニ類似意匠ノ登錄ヲ受ケテ一個ノ意匠ヲ些少ノ變更ヲ加ヘテ數十年ニ亘リテ専用スルコトヲ得ルニ至ルヘシ是レ類似意匠ノ専用年限ハ原意匠専用年限ニ從ハシメサル可カラサル所以ナリ

意匠専用ノ年限ハ各國法制甚タ區區ナリ英國ハ五年一八八三年法五〇米國ハ三年六個月又ハ七年又ハ十四年修正條例四九三ニ佛國ハ一年三年若ハ五年又ハ無期限一八〇六年法令一八編逸ハ一年乃至三年ニ原則トシ之ヲ十五年又ハ三年若ハ十年ニ延長スルコトヲ得一八七六年法八我舊意匠條例ハ三年五年七年及十年ノ四種トセリ意匠法ニ於テハ十五年ノ一種ナリト雖モ意匠料ハ毎年

意匠法 意匠専用權ノ效力

之ヲ納付スルモノニシテ又何時迄テモ專用權ヲ拋棄スルコトヲ得ラザルヲ以テ當業者ハ任意ニ短期ヲ保護ラ受クルコトヲ得ルヲ以テ其意匠法附(三)正準ノ三條意匠ノ專用ハ農商務大臣ハ定ムル類別ニ從テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル第四條農商務大臣ハ意匠法施行細則第七條ニ於テ所謂物品ノ類別ヲ定ムルヲ而シテ出願人ハ各類中ニ於テ更ニ意匠ヲ專用スルキ物品ヲ指定スルコトヲ要ス指定ノ範圍ニハ制限ナキヲ以テ一類中ノ物品ノ全部ヲ指定スルモ亦妨ナシト雖モ他類ニ跨ルコトヲ許サズ若シ一意匠ヲ數多ノ類別ニ跨リテ應用セシト欲セハ各類別毎ニ各別ノ出願ヲ爲ササルベカラズ

意匠專用權ハ此指定物品ニ限ラズ以テ同一意匠ヲ他ノ物品ニ應用スルモノタルキ蓋シ特許ニ在リテハ物品ノ發明者於テハ特ニ此ノ如キ制限ヲ用ヒテ目的ヲ有スルヲ以テ發明ヲ説明シ自ラ其ノ目的タル物品又ハ場合ヲ限定スルニ非ズ意匠ニ在リテハ物品ヲ構成又ハ特定ノ方法ニ關スルモノニ非シテ單ニ物品ニ應用スルキ形狀・色彩・模様ノ雛形ナルヲ以テ本來其ノ應用スルキ

範圍ニ定マリ無キモノナリ故ニ先ツ一定ノ物品ヲ指定セシムルニテ大ラズ類別ヲ設ケテ指定ノ範圍ヲ制限シ濫用ニ專用權ノ範圍ヲ廣クシテ公衆ノ利益ヲ害スルノ弊勿ラシメント欲スルナリ

四 意匠専用權ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得第六條第一項是レ特許法第五條ト同意ナリ

然ルニ意匠ニハ類似意匠アリ類似意匠ハ前ニモ述ベタル如ク原意匠又ハ他ノ類似意匠數個ノ類似意匠アル場合ト相抵觸スルモノナルヲ以テ意匠ヲ讓渡ス場合ニハ其ニ之ヲ讓渡シシムル方便宜ナリ共有及置入ノ場合モ亦同様ナリ故ニ同條第二項ニ於テ類似意匠ヲ所有スル者ハ其ノ類似意匠ト共ニ讓渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スニ非ザルハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得スト規定セリ前項ノ登録ヲ受クルニ非ザルハ讓渡共有又ハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得タルナリ故ニ第三者ニ對抗スルキ效力ヲ有スル讓渡其他ノ契約

ヲ爲サントスルニハ必ズ類似意匠ト共ニセサル可カラズ此規定ハ類似意匠ヲ
 原意匠ト共ニ移轉セシムル目的ヲ達スルト同時ニ類似意匠ノ存在ヲ知ラスシ
 テ意匠ヲ讓受ケ又ハ共有シ又ハ質ニ取ル者ニ類似意匠ノ存在ヲ知ラシメテ登錄
 ヲ拒マルルニ因リ之ヲシテ不意ノ損害ヲ免カレシムル者ニシテ前項ノ如ク第
 三者ノ利益ヲ保護スルヲ以テ目的ト爲スモノニ非ス何トナレハ其ノ移轉ヲ登
 録セシムルト否トハ特ニ第三者ノ利益ニ關係アルニ非ス何トナレハ登錄セザ
 ランカ第三者ニ對シテ效力ナキヲ以テ第三者ハ何等ノ痛痒ヲ感セサルヘシ又
 之ヲ登錄センカ登錄ニ因リテ事實ハ公示セラレルヲ以テ是亦タ第三者ヲ害ス
 ル所ナキヲ以テナリ

第二項ノ規定ハ一見シタル所ニテハ原意匠ヲ移轉スル場合ニハ類似意匠モ共
 ニ移轉スルニ非サレハ登錄ヲ受クルコトヲ得スト云フノミニシテ類似意匠ノ
 ミヲ移轉スル場合トハ關係ナキカ如シト雖モ類似意匠モ亦原意匠ト共ニスル
 ニ非サレハ登錄ヲ受クルコトヲ得サル趣旨ト解釋セサルヘカラス蓋類似意匠
 モ亦意匠ナルヲ以テ第一項ノ規定ニ從テ移轉スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ故

ニ若シ第二項ノ規定ノ束縛ヲ受ケストスレハ類似意匠ハ單獨ニ轉讓スルコト
 トナリ第二條第三號又ハ本條第二項ノ規定ノ精神ト正ニ相反スルニ至ルヘシ
 勿論類似意匠ヲ讓受クル者ハ其ノ類似意匠ナルコトヲ知リテ讓受クルヲ以テ
 原意匠ノ存在ヲ知ラザリシカ爲メニ不意ノ損失ヲ受クルカ如キコト無ガルヘ
 シト雖モ類似意匠讓渡後ニ於テハ原意匠所有者ハ已ニ類似意匠ノ所有者ニ非
 サルヲ以テ第二項ノ規定ノ束縛ヲ受ケスシテ移轉ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ル
 コトトナルヘシ是豈ニ立法ノ趣旨ナランヤ抑モ原意匠ト類似意匠トハ互ニ相
 類似スルモノニシテ一方ハ他方ニ對シテ類似意匠タルヘク原意匠ト類似意匠
 トハ單ニ登錄ノ先後ノ差別アルノミ故ニ第三條ノ場合ノ如ク登錄ノ先後ニ因
 リテ差別セサルヘカラサル場合ノ外ハ類似意匠ナル語ハ必スシモ原意匠ニ對
 シテ用ヒラレタルモノト見ルヘキニ非ス余ハ第六條第二項ニ於ケル類似意匠
 ナル語ハ原意匠ヲモ包含スト解釋スルヲ以テ當ヲ得タルモノト信ス勿論立法
 者ニ用語不詮議ノ責アルハ免カレサル所ナリ

彼ノ追加特許ハ絕對ニ原特許ト共ニ移轉スルモノナリ(特一九九條)ニ意匠ハ類

以意匠ト其ニスルニ非サレハ登録ヲ受クルコトヲ得サルノミニシテ讓渡其他ノ行為ヲ爲スコトヲ得スト云フニ非サルヲ以テ登録ヲ受クルコトヲ得サルコトヲ嫌ハサレハ原意匠ニテモ類似意匠ニテモ隨意ニ移轉スルコトヲ得ヘシ乃チ原意匠ト各類似トハ別レテ別人ノ手ニ存在スルコトアルヘシ立法者ノ趣旨ハ蓋シ追加特許ナルモノハ所謂ル利用發明ニシテ本來何人モ之ニ特許ヲ受クルコトヲ得ヘキモノナリ法律ハ唯原特許所有者ノ利益ノ爲メニ特ニ追加特許ノ制ヲ定メ原特許所有者ハ其ノ利用發明ニ對シテ普通ノ特許ヲ受クルコトモ得ヘク又特別ノ特許料ヲ納メテ一時ニ金二十圓追加特許ヲ受クルコトモ得ヘシ故ニ若シ追加特許ヲ單獨ニ移轉スルコトヲ許サンカ恰モ原特許所有者外ノ者ヲシテ追加特許ノ恩惠ニ浴セシムルカ如キ事實ノ生セサルヲ保セス故ニ絶對ニ原特許ヲ離レテ移轉スルコトヲ許サス若シ之ヲ以テ不便トセハ初ヨリ普通ノ特許ヲ受クレハ可ナリト云フナリ或ハ然ラズ然ラハ類似意匠ハ追加特許ト異ナリテ他人ハ之カ登録ヲ受クルコトヲ得サルノミナラス原意匠所有者ト雖モ二種ノ登録普通ノ登録ト和似意匠ノ登録トヲ隨意ニ選擇スルコトヲ得ル

モノニ非サルヲ以テ類似意匠ノ分離其物カ直接ニ公益ニ反スルニ非サル限リハ當事者ノ意思ニ從テ其分離ヲ公認シテ可ナリ而シテ類似意匠ヲ原意匠ト分離シテ別人ノ手ニ歸セシムルモ何等公益ニ害アリト思ハレサルノミナラス第二項ノ規定アルモ當事者間ニ十分ノ效力アル契約ヲ以テ類似意匠ハ單獨ニ轉轉セラルルニ非スヤ登録ヲ受ケスレテ移轉スルハ害ナク登録ヲ受クレハ害アリト謂フノ理由ヲ解スルニ苦ムナリ若又立法ノ趣意カ類似意匠ノ存在ヲ知ラスレテ讓受其他ノ契約ヲ爲シ不意ノ損失ヲ受クル者ヲ保護スルニ在リトセシカ當事者カ類似意匠ノ存在ヲ知リツツ之ヲ授受スルニ於テハ何等ノ弊害ナク又人ヲシテ類似意匠ノ存在ヲ知ラシムル手段ハ多ク之アルヘシ何ソ必スシモ之カ登録ヲ許サスト云ハンヤ

五 意匠專用權ノ侵害ニ因リテ損害ヲ受ケタルトキハ意匠專用權者又ハ制限附專用權ノ讓受人ハ民法規定ニ依リ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論或ル侵害行為ニ對シテハ法律ハ更ニ刑ノ制裁ヲ設ケタルコト特許侵害ノ場合ニ於ケルカ如シ第十七條特四五特許法講義九〇頁以下

第十七條ノ規定ニ曰ク

他人ノ登錄意匠ヲ模擬シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ模擬シタル物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
他人ノ登錄意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知りテ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ
ト之ヲ特許法第四十五條ニ對照スルトキハ本條第一項ノ規定ハ特許法第四十五條ノ前段即偽造及ヒ偽造品ノ販賣ニ關スル規定ニ該當シ唯偽造品ノ使用ニ關スル規定ヲ缺クノミ
第二項ノ規定ハ特許法第四十五條ノ第二項ニ該當シ唯輸入物品ノ使用ニ關スル規定ヲ缺クノミ而シテ特許法第四十五條第一項第二段ノ規定ハ特許方法ノ竊用ニ關スル規定ナルヲ以テ意匠法ニ之ヲ缺キタルハ當然ノ事理ナリ又偽造品ヲ使用シタル者及ヒ意匠專用權ヲ侵害スヘキ輸入品ヲ情ヲ知りテ使用シタル者ヲ罰セサルハ已ニ述ベタル如ク意匠專用權ハ意匠ヲ應用シタル物品ヲ使用スル權利ヲ包含セザルヲ以テ是亦タ當ヲ得タリト云

フヘシ但シ意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル權利ハ意匠專用權ノ範圍ニ屬スルモノニ非サルニ意匠ヲ模擬シタル物品ヲ情ヲ知りテ販賣シタル者ヲ意匠模擬者ト同様ニ罰シタルハ意匠專用ノ主タル利益ハ之ヲ應用シタル物品ヲ販賣スルニ在リ故ニ模擬シタル物品ノ販賣モ亦タ刑ノ制裁ヲ設ケテ之ヲ禁シタルナリ或ハ疑フ者アリ已ニ第十七條ニ於テ意匠模擬ノ行為ト共ニ之ヲ禁シ制裁ヲ附シタルヨリ見レハ意匠ヲ應用シタル物品ノ販賣モ亦タ專用權ノ内容ニ屬スルニ非サルカ立法者カ意匠所有者ノ利益ヲ保護スル爲メニ極メテ必要ト見タレハコン刑ノ制裁モ設ケタル大リ然ラハ何ノ之ヲ專用權ノ範圍ニ屬セシメサルノ理アラシヤト然リ條理ヨリ云フトキハ意匠專用權ニ於テモ特許ニ於ケルカ如ク意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル行為モ之ヲ包含セシメテ不可ナキカ如シ然レトモ前ニモ述ヘタル如ク第一條ノ法文ノ專用ナル語ハ意匠ノ專用タルコト明白ニシテ又意匠ノ使用ト云ヘハ意匠ヲ物品ニ應用スル行為ニ止マリ其物品ノ處分マララ含ムモノニ非サルヲ以テ之ヲ特許ノ如ク廣ク解釋スルコト能ハス又タ特許意匠專用權等ノ如キ特權ハ嚴正ニ解釋スルヲ以テ至當ト

ス且夫レ第十七條ハ特許法第四十五條ト同シク一方ニ於テハ權利ノ侵害行爲ヲ盡ク列舉シタルモノニ非ス(故意ニ基カサル侵害行爲ノ如キ又ハ特許品ノ販賣外ノ擴布ノ如キ共ニ規定ナシ)又他ノ一方ニ於テハ權利ノ侵害ニ非スト雖モ權利者ノ利益ヲ保護スルタメニ禁セサルヘカラサル行爲モ亦タ此ニ規定セルアリ即物品ノ輸入行爲ヲ罰スルモノ是ナリ物品ヲ輸入シタルノミニテハ物品ノ使用ニモ非ス製作ニモアラス販賣又ハ擴布ニモ非サルナリ故ニ本條ニ規定シタルカ爲メニ之ヲ專用權侵害ノ行爲ナリト斷定スルコトヲ得サルナリ特許法講義九六頁參照然レトモ余カ說ノ弱點ハ本條第二項ノ規定ニ於テ他人ノ登錄意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知リテ云云ノ解說ノ甚タ難澁ナルニ在リ此規定ハ輸入セントスル物品ノ形狀模様又ハ色彩カ他人ノ登錄意匠ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知リテ之ヲ輸入シタル者ヲ罰セント欲スルモノナルコト爭ナキ所ナリ然ルニ意匠專用權ハ外國ニ及ハサルヲ以テ外國ニテ物品ニ之ヲ應用スルヲモ專用權ノ侵害ニ非サルハ勿論ナリ然ラハ他人ノ登錄意匠ヲ侵害スヘキ物品トハ此場合ニ於テハ之ヲ輸入シタル後或ル行爲ニ因リテ專用

權ヲ侵害スル物品ト解釋セサル可カラス輸入行爲ハ侵害行爲ニ非サルヲ以テ然ルニ意匠專用權ハ意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル權利ヲ包含セストズレハ登錄意匠ヲ侵害スヘキ物品ト云フコトヲ得サルナリ然レトモ是レ立法者用語ノ杜撰ノ罪ナリ解釋者ハ唯タ其趣意ヲ尋テテ説明スルノ外ナシ

尙此條文中稍ヤ疑議アルハ摸擬ナル文字ナリ試ミニ舊意匠條例第二十三條ノ規定ヲ見ルニ他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リテ之ヲ同一物品ニ應用シテ販賣シタル者云云トアリ乃舊法ニ於テハ應用シタルノミニテハ罪トナラス(權利侵害ナルコト勿論ナレトモ)之ヲ販賣シテ始メテ罰セラル然ルニ新法ニ於テハ摸擬ノミニテ罪ハ成立スルナリ舊法ニテ他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リテ云フハ所謂ル故意ニ出テタルコトヲ要スル趣意ナリ而シテ新法ノ摸擬ナル語モ特許法第四十五條ノ偽造ト同シク故意ノ所爲ナルコト字義明白ナリ唯摸擬ナル所爲ハ舊法ノ他人ノ登錄意匠ナリト知リテ之ヲ同一物品ニ應用スルト同義ナルヤ否ヤ舊法ノ條文ハ他人ノ登錄意匠ヲ同一物品ニ應用スルト云フヲ以テ意義ハ明白ナリ然ルニ摸擬ナル文字ハ故意ニ他物ニ似セテ造ル義ナルヲ以テ其

ノ造リシ所ノ物必スシモ他物ト同一ナラス唯相似ルコトヲ要スルモノミ即チ模
擬ナル所爲ノ要素ハ似セル意思ト造リシ物ノ似タルコトト是ナリ似ルトハ外
觀ノ彼此相紛ハシキヲ云フモノニシテ所謂ル類似意匠ノ類似ト均シ然ラハ模
擬ニ因リテ出來タル意匠ハ必スシモ舊法ノ所謂ル他人ノ登録意匠其物ニ非サ
ルヲ以テ新法ノ規定ハ舊法ノ規定ニ比スレハ包括スル所廣シト云ハサルヘカ
ラス是レ新法ノ特ニ文字ヲ改メタル理由ナリ此ニ於テ更ニ一疑問ヲ生ス模擬
意匠カ登録意匠ト同一ナラサル場合即チ單ニ相類似スルニ止マル場合ニハ意
匠專用權ノ侵害ト見ルヘキヤ將タ物品ノ販賣輸入等ノ如ク侵害ニハ非サレト
モ意匠所有者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナルカ爲メニ特ニ設ケタル刑罰規定ナ
ルヤノ問題はナリ若夫レ意匠專用權ヲ以テ意匠ヲ使用スル權利ト爲シ意匠ハ
雜形ニシテ特定セルモノナリトスルトキハ意匠專用權ノ内容ハ其特定セル雜
形ノ使用ヲ以テ限ラレサルヘカラス從テ假令類似ノ外觀アリトモ別個ノ意匠
ナルニ於テハ意匠專用權ヲ侵害スルモノト云フコト能ハス即チ特ニ第十七條
ノ規定ニ依ル禁制行爲ト見ルヘキカ如シ然レトモ意匠專用權ハ其意匠ノ全部

ニ及フモノナリ單ニ其全部ヲ一體トシテノミナラス其ノ何レノ部分ニモ及フ
モノナリ故ニ其ノ全部ヲ應用スルモ又其ノ一部ヲ應用スルモ共ニ意匠專用權
ノ侵害トナルナリ獨逸意匠法ニ於テハ其第一條ニ於テ意匠專用權ハ其意匠ノ
全部又ハ一部ヲ模寫スル權利ナルコトヲ明言セリ他ノ立法例ニ於テハ之ヲ明
言セストモ猶同様ノ解釋ヲ執ルナリ是レ意匠專用權ヲ認ムル以上ハ當然風與
ヒタルヘカラサル範圍ナリ蓋シ微細ノ異點アルモ尙ホ同一意匠ニ非サルヲ以
テ外觀始ト相等シキニ拘ハラス意匠專用權ノ侵害ニ非スト云ハハ意匠專用權
ノ内容ハ極メテ狹隘ナルモノトナルヘケレハナリ故ニ余ハ舊法ノ規定ニ於テ
「登録意匠ヲ應用スル」トアルモ亦全部ノ應用ノミナラス一部ノ應用ヲモ包含ス
ト解釋セント欲スルナリ

六 意匠專用權者カ負フ所ノ義務モ亦二アリ(一)意匠料ノ納付義務(二)登録標記
ノ義務是ナリ其性質ハ全ク特許料及ヒ特許標記ト同シ但意匠料ノ金額ハ第一
年ヨリ第三年マテハ毎年金三圓第四年ヨリ第六年マテハ毎年金五圓第七年ヨ
リ第十年マテハ毎年金七圓又類似意匠ハ一時ニ金三圓ニシテ特許料ニ比スレ

ハ稍廉ナルノミ其他意匠料及登録標記ニ關スル規定ハ特許料及特許標記ニ關
スル規定ト異ナラス(第十三條乃至第十五條及第二十一條特許法講義一〇一頁
以下)

第四章 意匠專用權ノ無効權利確認及消滅

一 意匠專用權ノ無効ニ關スル法理ハ特許ノ無効ト異ナル所ナシ故ニ此ニハ
之ヲ述ヘス特許法講義一一二頁以下ヲ參照スヘシ無効審判ニ關スル規定モ亦
タ特許ノ無効審判ニ關スル規定ニ準ズ
無効原因ハ第十一條ノ規定スル所ナリ乃チ第一條第二條第五條又ハ第九條ニ
違反シテ登録セラレタルモノハ無効ナリ
一、第一條ニ違反スル場合ハ左ノ如シ
イ、工業上ノ物品ニ應用スヘカラサル意匠ヲ登録シタルモノ其意匠ノ
形状模樣色彩又ハ其結合ニ非ナルモノヲ登録シタルモノ
ハ、意匠ノ新規ヲ失フナルモノヲ登録シタルモノ

イ、意匠ノ案出者又ハ其ノ承繼人ニ非ナル者ノ名義ニテ登録シタルモノ

ニ、第二條ニ違反スル場合ハ左ノ如シ
イ、其花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀模樣ヲ有スル意匠ヲ登録シタル
モノ

三、第一條ノ秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アル意匠ヲ登録シタルモノ
イ、意匠登録出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタル意匠又ハ之ト類
似スル類似スル意匠自己ノ登録意匠ト類似スルヲ問ハスヲ登録シタルモノ

第五條ニ違反スル場合ハ左ノ如シ

イ、他人ノ委託ニ因リ案出シタル意匠ヲ委託者又ハ其承繼人ニ非ナル
者ノ名義ニテ登録シタルモノ(但シ別ニ契約アル場合ニハ第一條ノ
原則ニ從フ)

ハ、雇主ノ費用ヲ以テ案出シタル意匠ヲ雇主又ハ其承繼人ニ非ナル者
ノ名義ニテ登録シタルモノ(但シ……イニ同シ)

四、第九條ニ違反スル場合ハ左ノ如シ

イ、二人以上同一又ハ相類似スル意匠ノ登録ヲ出願スル者アルニ當リ

出願ノ後ナル者ヲ登録シタルモノ

ロ、同一又ハ相類似スル意匠ノ同時ノ出願アルニ當リ總出願者ヨリ連

名ノ申出ナク又出願者一人ト爲リタル事實ナキニ其ノ一箇又ハ數

箇ヲ登録シタルモノ

二、意匠專用權ノ權利確認ニ關スル規定ハ全然特許法第二十九條ノ準用アル

ヲ以テ此ニハ略シテ述ヘスト特許法講義一二五頁以下ヲ參照スヘシ

三、消滅ニ關シテ特許ト異ナル所ハ單ニ取消原因中特許法第三十八條第一號

ノ原因即チ「特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經ルモ帝國

内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セタル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シ

タル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其讓受若ハ使用ヲ請求スルモ

之ヲ拒絕シタルトキニ該當スヘキ規定無キノミ他ハ盡ク特許消滅原因ト同シ

キヲ以テ略シテ說カスト特許法講義一三二頁以下ヲ參照スヘシ

一〇 [海] [海]

一一 [海] [海]

一二 [海] [海]

一三 [海] [海]

一四 [海] [海]

一五 [海] [海]

一六 [海] [海]

一七 [海] [海]

一八 [海] [海]

一九 [海] [海]

二〇 [海] [海]

意匠法

意 列 志 録

意 列 志 録 意 列 志 録 意 列 志 録

正 誤

頁 行	誤	正
一四	末行	「出願」前
一五	六	「事實」ノ下ノ括弧ハ行
一六	七	「美觀」ノ下ニ「サ」字ヲ脱ス
一六	末行	「於ハテ」 「於テハ」
二三	一一	「多數」 「ハ多數」
二四	九	「シテ」ノ下「或ハ」ヲ脱ス
二四	一〇	「者ナリ」 「者アリ」
三三	一一	「特許」ノ下「類」ハ行
三五	一〇	「終」 「故」

(特別法講義終)

法 學 士 杉 本 貞 治 郎 講 述

意 匠 法

法 政 大 學 發 行

老幼大學發行

意匠法目次

意匠法目次

總說

第一章 意匠

第二章 意匠專用權ノ發生

第三章 意匠專用權ノ效力

第四章 意匠專用權ノ無效權利確認及消滅

意匠法目次終

意匠法目次

意 判 裁 目 次

第四章 意 判 專 用 辭、無 效 辭 阿 爾 羅 亞 帶 戴 五〇

第三章 意 判 專 用 辭、最 氏 三二

第二章 意 判 專 用 辭、發 止 二一

第一章 意 判 三〇

附 錄

意 判 裁 目 次

輔佐人ト共ニ出頭シ得トノ便宜解釋ヲ爲ス所以ナリ

第三章 非訟手續

第一節 總則

第一款 用語

裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユヘキモノトシ、(裁 判 法 第一一五條)是ハ口頭ナルト
 將タ書面ナルトヲ問ヘヌ又裁判所ナルト將タ關係人若クハ第三者例之證人、鑑
 定人等ノ如キノ陳述ナルトヲ問ヘヌ總テ日本語ヲ使用スヘキモノナリ

第二款 期日及ヒ期間

期日及ヒ期間ニ就ラム民事訴訟法ニ詳細ナル規定アリテ是等ノ規定ハ性質上
 非訟事件ト雖モ之ヲ區別スヘキ理由ナキヲ以テ更ニ非訟事件手續法ニ列記ス
 ルヲ繁ヲ避ケ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルコトヲ爲セリ(本法第一〇條)
 非訟事件手續法ニ於テ期日及ヒ期間期日本法第五條證據調期日本法第一四

非訟事件手續法 規則 非訟手續 規則

條及ヒ第一〇條封印及ヒ除去ノ期日本法第五〇條及ヒ第五二條遺言書檢認期日本法第一一三條等ヲ開ヒ期間トハ抗告期間日本法第二二條公示催告期間相續拋棄又ハ承認ノ期間日本法第一〇三條開業期間日本法第一三四條異議ノ期間日本法第一六四條等ヲ謂フナリ

第三款 送達

送達ニ付テハ非訟事件手続法第百十一條ニ依リ登記申請ヲ却下スル決定ノ送達ニ付キ民事訴訟法ノ規定ニ從テハ外期日及ヒ期間等如ク一般ニ民事訴訟法ヲ準用スヘキ規定ナキモ本法第一〇條民事訴訟法第一六一條ニ依リ期日呼出狀ヲ送達スル場合ノ如キハ其規定ノ結果當然民事訴訟法ノ送達ノ規定ヲ準用セラル可カラス又本法第一八條ニ依リ裁判ノ告知ヲ送達ノ方法ヲ以テ爲サシムル場合ノ如キハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノトス故ニ何等ノ明文ナキモ送達ヲ爲サシムル場合ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ相當ナリト信ス

第二節 裁判前ノ手續

第一款 手續ノ開始

非訟手續ノ開始ニ付テハ非訟事件手続法上何等ノ規定ナシ故ニ各場合ニ付キ本法及ヒ實體法ノ規定ニ依リテ之ヲ判斷セラル得ス今此等ノ規定ニ從ヘハ手續ノ開始ハ職權ヲ以テ民法第二九條第七五條第七六條第八二條第八四條第九七八條第二項第一〇二二條第三項第一〇五三條及ヒ第一〇七條民法施行法第二二條商法第一八條第二六一條第二六二條及ヒ第五三六條商法施行法第一一條第五四條第六〇條第六九條第七五條第八七條及第九五條本法第三六條第四〇條第四一條其他又ハ一定ノ關係人ノ申立ニ因リ民法第二五條第二六條第七五條第七六條其他民法商法ノ規定枚舉ニ遑アラズ開始セラルルモノトス」手續カ職權ニ因リ開始セラルル場合ニ於テハ裁判所ハ職務上其關與スヘキ事項ノ生シタルコトヲ認知セル場合ハ勿論他ノ官廳又ハ一私人ノ通知ニ依リテ該事項ノ生シタルコト明カナルトキハ其手續ヲ開始セラル可カラス

手續カ申立ニ因リ開始セラレル場合ニ於テハ通常申立ニ付テハ一定ノ條件ヲ必要トスルカ故ニ裁判所ハ職權上其申立カ適法ナリヤ否ヤヲ審査スヘキモノトス而シテ其申立カ適法ナルトキハ其手續開始セラレルモノナリ而シテ手續ハ申立ニ因リ開始セラレルモ結論ニ於テ違ハズル如ク非訟事件ハ職權干涉主義ヲ採用スルヲ以テ事後ノ手續ハ當然此主義ニ依リテ進行スヘキモノトス

申立ニ因ル手續ト職權ニ因ル手續ト異ナル點ハ申立ニ因ル手續ニ於テハ普通申立ノ取下ヲ許スヲ以テ申立ニ因ル手續ハ其取下ニ因リテ消滅スルコトアリモ職權ニ因ル手續ハ取下ナルモノトナキヲ以テ之ニ依リ消滅スルコトナシ

第二款 申立及ヒ陳述

申立ニハ廣狹ノ二意義アリテ廣義ノ申立申ニハ狹義ノ申立申請及ヒ申述ヲ包含ス(本法第三三條其ニ裁判所ニ對シ或行爲ノ發動ヲ求ムル當事者ノ要求ニ過キス故ニ申立ト云ヒ申請ト云ヒ將テ申述ト稱スルモ是レ單ニ形式上ノ區別ニ過キスシテ實質上何等ノ差異ナキモノトス唯陳述ハ是等ト異ナリ即チ裁判所

ニ對シ或行爲ノ發動ヲ求ムルモノニ非スシテ單ニ關係人ノ意思表示ニ過キタルナリ(例之本法第二百七條ノ陳述ノ如キハ單ニ辯解ノ意轉ニ過キタルカ如シ)非訟事件ニ於テハ簡易迅速ヲ尙フ必要上申立及ヒ陳述ヲ付テテ書面若クハ口頭ノ一方ノミニ制限セシテ關係人ノ便宜ニ從ヒ任意ニ其一ヲ選擇シテ之ヲ爲スコトヲ許セリ然レトモ口頭ヲ以テ申立及ヒ陳述ヲ爲シタルトキハ後日ニ至リ果シテ申立及ヒ陳述アリタルコトヲ證スヘキモノナキカ爲テ爭ヲ惹起スル虞アルヲ以テ民事訴訟法第三百三十五條ヲ準用シ口頭ヲ以テ申立及ヒ陳述ヲ爲ス場合ニハ裁判所書記ハ其調書ヲ作成スヘキモノト定メタリ本法第八條申立及ヒ陳述ヲ書面若クハ口頭ヲ以テ爲スハ關係人ノ任意ナルモ本法第二百二十七條ニ於ケル検査役選任ノ申請第四百九條ニ於ケル商業登記ノ申請ノ如キ特ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトヲ規定スル場合ハ例外ナリトス蓋シ是等ノ場合ニ一口頭ヲ以テ爲サンカ裁判所ニ於テ實ニ其煩ニ堪ヘサルヘキヲ以テナリ

申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人署名捺印スヘキモノトス(本法

第九條 一、申立人ノ氏名住所

二、代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ代理人ノ氏名住所

三、申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實

四、年月日

五、裁判所ノ表示

證據書類アルトキハ其原本文ハ原本ヲ添付スヘキコト

右事項ハ一般ノ申立ノ規定ナルモ本法ニ於テハ右要件ノ外或申立ニ付テハ尙

ホ特別ノ事項ヲ掲クヘキ旨ヲ規定セル場合ナリ例之本法第七十四條ニ於ケル

代理ノ申請及ビ同第五條ニ於ケル相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ノ如シ尙

ホ右ノ要件ニ拘ハラス特ニ記載事項ヲ明定シタル場合アテ本法第二百二十七條

ニ於ケル検査役選任ノ申請ノ如キ又ハ第四百四十九條ニ於ケル商業登記ノ申請

ノ如キ是レナリ是等特別ノ場合ハ固ヨリ其規定ニ從フヘキモノナルモ何等ノ

規定ナキ場合ニ於テハ同法第九條ノ一般ノ規定ニ依ラサル可カラズ

論ニ列舉セル事項ハ申立ノ必要條件ナルハ故ニ申立書ニ必ズ記載スヘ

キ又口頭ノ以テ申立ヲ爲ス場合ニハ裁判所書記官ニ存事項ヲ記載スルコ

トヲ要スニ付シテ其事項ニ依リテ裁判官ノ裁量ニ依リテ或ハ一ノ辯論ノ狀ヲ又ハ一ノ辯論ノ

申立ノ取下ヲ許スヤ否ヤニ付テハ非訟事件手續法ニ何等ノ規定ナキカ故ニ法

理上之ヲ決スルノ外ナシ余輩ノ見解ニ依レテ取下ノ第一審ナルト將タ抗告審

ナルトヲ問ハス之ヲ許スヲ以テ相當ト然レトモ左ノ場合ニ於テハ申立ノ取

下ハ之ヲ許ス可キモノニ非スト信スヘキコト也即チ申立人ノ申立

以一裁判カ既ニ確定シタルカ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツベコトヲ得タルト

キ時キ蓋シ普通ノ法理トシテ申立人ハ其申立ニ基キ裁判所ノ爲シタル裁判

ニ對シテ有效ニ拋棄スル權利ナキヲ以テ既ニ裁判確定シタル後ハ之ヲ取下ヲ爲

スコトヲ得サルモノナリ

二、申立ニ因リテ關係人相互間ニ法律關係カ生シタルトキ 此場合ニ於テハ

申立人ノ一方ノミニ因ル取下之ヲ許サス蓋シ相手方ヲ害スヘキヲ以テ

三、ナリ

三、申立ニ因リ開始セラレタル非訟事件カ公益ニ關係ヲ有スルトキ

第三款 事實ノ確定

第一項 事實ノ探知

裁判所ハ裁判其他ノ處分ヲ爲スニ先ツ判斷ニマテ必要ナル事實カ眞實ナリ
ヤ將タ否ラサルヤヲ確定セサル可カラズ事實ノ確定ナルコトハ元ヨリ職權ヲ
以テ之ヲ爲スヘキモノナリ本法第十條ニ依リ關係人ノ處分主義ハ凡テ排斥
モラレ職權主義ヲ採用セルコト明白ナルヲ以テ關係人ノ陳述及ヒ其他ノ申立
ハ單ニ裁判所ニ對シテ附庸ノ材料ニ過キサルナリ
裁判所ハ自由ノ心證ニ依リ客觀的眞實又ハ不眞實ヲ確定スヘキモノニシテ形
式的眞實ナルモノハ全ク非訟事件ニ於テ之ヲ認ムルヲ得サルナリ故ニ非訟事
件手續法ニ在テハ民事訴訟法ニ於ケル如ク一ノ擬制ノ規定ナク又一ノ推定ノ
規定ナク即チ單ニ關係人ノ陳述又ハ陳述ノ拒絕ニ對シテ一定ノ法律上ノ效果ヲ
結合セシメルコトナク又自白推棄聽諾ノ如キ孰レモ裁判所ヲ羈束スル效力ナ

ク裁判所ハ此等ノ意思表示ニ付キ其内容ノ價值ヲ判斷シテ事實ヲ確定スルコ
トヲ得ルノミ而シテ唯一ノ例外ハ申立ニ因ル手續ノ通常ノ場合ニ於テ申立ノ
取下ヲ許スコト是レナリ從テ和解モ亦當然之ヲ爲スコトヲ得ス唯テ關係人ノ
合意ニ因リテ取下ノ申立ヲ許スコトアルノミニ關係人ハ書狀提出ノ命令ニ申
事實確定ノ手段ハ事實ノ探知及ヒ證據調ヲ爲スヘキモノトス(本法第一一條)註
「註」證據調手續ニ付テハ第三項ニ詳述スヘキモ或事項ニ限リ便宜上茲ニ併セ
講述ス讀者怪ム勿レ
第一 事實ノ探知
事實ノ確定ヲ爲スヘキ通常ノ方法ハ必要ナル探知ヲ爲スニ在リ裁判所カ此
事實ノ探知ヲ爲スニ付テハ何等ノ形式ニ羈束セラレス故ニ事件ノ真相ヲ探
究スルニ必要ナル手段ハ任意ニ之ヲ爲スコトヲ得即チ事實ノ探知ハ一人
又ハ官廳ニ書面上ノ問合ニ依リ又一件記録ノ查閱ニ依リ或ハ關係人ヲ審訊
スルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘタ尙ホ又裁判所ハ自ら事實ヲ探知スルコ

トヲ得ルハ勿論他ノ官廳殊ニ檢事ニ囑託シテ之ヲ爲スニ得ル得ヘキモノト
ス然レトモ其命令ノ施行ニ付キ強制手段ヲ有セザルヲ以テ實際其事實探知
ノ效用ヲ完フスルコト能ハサルハ遺憾ナリトス

第二 證據調

證據調モ亦事實ノ探知ト同シク事實確定ノ手段ニ過キサルモ事實探知ト異
ナリ殊別ナル形式ノ手段ヲ必要トスルモノナリ非訟事件手續法ニ於テハ唯
タ二個ノ形式ノ證據方法ヲ認メタルノミ即人證及ヒ鑑定是レナリ本法第一
〇條或學者ハ本法第十一條ニハ單ニ必要ナル證據調トアルヲ以テ書證及ヒ
檢證ノ如キ證據調モ亦包含スト説明スルモ此等ノ證據調ニ付テハ何等ノ規
定ナキヲ以テ第十條第十一條ノ規定ヨリシテ非訟事件ニ付テハ他ノ證據方
法ハ之ヲ認メストスルヲ相當ナリト信ス故ニ關係人ハ書證提出ノ命令ヲ申
請スルコトヲ得ス又證書ヲ提起セス之ニ付キ陳述セザルカ爲メ一定ノ法律
上ノ效果ヲ受クヘキモノニ非ス但疏明ノ方法トシテハ證書ヲ提出スルコト
ヲ得ルヤ勿論ナリ(本法第一〇條)

如何ナル範圍ニ於テ事實ノ探知及ヒ證據調ヲ爲スヘキカハ職權ヲ以テ爲スヘ
キモノニシテ何等關係人ノ申出ニ拘束セラルルコトナシ然レトモ關係人ノ申
出タル事實及ヒ證據ニ於テモ裁判所カ適當ト認メタルモノハ之ヲ採用スル
コト元ヨリ妨ケサル所ナリ
事實ノ探知及ヒ證據調ヲ爲スコトハ全ク裁判所ノ職權ニシテ且職務ナリ故ニ
裁判所ハ先ツ事實ノ確定ニ必要ナル探知ヲ爲ササル可カラズ然レトモ一ノ事
件ニ於テ裁判所カ關係人ノ申出ニ信用ヲ措クトキハ全ク探知ヲ爲ササルコト
ヲ得ヘク又裁判所ハ一事實ノ探知ノミニ因リテ或事實ヲ確定スルコトヲ得ル
トキハ最早他ノ事實ノ探知ヲ爲スコトヲ要セザルモノトス之ト同シク證據調
モ裁判所ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ爲ササル可カラサルモ前同様關係
人ノ申出ニヨリテ事實ヲ確定スルコトヲ得ヘキトキハ之ヲ爲ササルモ可ナリ
故ニ裁判所カ各個ノ場合ニ於テ事實探知ノミニテ充分ナルカ將タ進ンテ形式
的證據調ヲ要スルカハ全ク裁判所ノ自由ノ判斷ナリトス然レハ抗告裁判所カ
證據調ヲ爲サナリシトノ理由ヲ以テ再抗告裁判所カ抗告裁判所ノ裁判ヲ取消

第二項 審問

非訟事件ニ於テハ干渉主義ヲ採リ審問ニ付テハ密行主義ヲ採用スルコト及ヒ審問ノ所謂口頭辯論ト異ナルコトハ結論ニ於テ説明セシテ以テ茲ニ再ヒ之ヲ贅セス
裁判所ハ非訟事件ニ付キ裁判ヲ言渡ス前關係人ヲ審問スヘキ義務ヲ有セス從テ關係人ハ審問ヲ要求スヘキ權利ナキモノトス而シテ審問ヲ爲スヤ否ヤハ全ク裁判所ノ認定權ニ屬シ裁判所カ審問ヲ必要トスルカ又ハ目的ニ適スルト思料スルトキハ之ヲ爲スモノトス故ニ非訟事件ノ審問ニ於テハ其主體タルモノハ裁判所ノミニシテ關係人ハ單ニ其目的タルニ過キス換言スレハ關係人ヲ審問スル直接ノ目的ハ眞實ヲ探究スルニ在リテ之ニヨリ關係人ノ權利ヲ承諾スルコトハ間接ノ目的ナリ如何ナル方法ニ依リテ審問スルヤハ裁判所ノ自由ニシテ即チ書面上又ハ口頭上ヲ陳述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス而シ

テ如何ナル場合ニ書面上又ハ口頭上ノ審問ヲ爲スカハ是レ亦裁判所ノ任意ナリトス(恐クハ事件輕微ナルトキハ書面上ノ陳述ニヨリ審問ヲ爲シ事件稍々重大ナルトキ口頭上ノ陳述ニヨリ之ヲ爲スモノト思料ス)
非訟事件ニ於テハ職權干渉主義ヲ採用スル結果關係人ハ裁判所ノ命アルトキハ出頭シテ裁判所ノ問ニ答フル義務アルモノナリ故ニ當事者ヲ審問セサルコトヲ理由トシ又ハ不當ナル形式ニ依リ審問シタルコトヲ理由トシテ抗告裁判所ノ裁判ヲ取消スコトヲ得ス何トナレハ以上ノ場合ニ於テ法律ノ違背ナキヲ以テナリ但法律上裁判前告知其他當事者ノ陳述ヲ爲サシムヘキコトヲ規定シタル場合ハ例外ナリトス(本法第六四條第二〇七條)
要スルニ非訟事件ハ概シテ一個人ノ利害關係ノミニ止マラス延テ公益ニ關係ヲ及ボスコト極メテ大ナルヲ以テ公益ノ代表者タル檢事ヲシテ事件ニ付キ意見ヲ述ヘシメ且ツ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得セシメテ第一編第一章第二節第一款第二項第四參照從テ意見又ハ立會ノ機會ヲ與フルカ爲メニ事件及ヒ審問期日ハ檢事ニ之ヲ通知スヘキモノトス本法第一五條第二

檢事ハ法律上非訟事件ノ裁判ヲ請求スヘキ職務ヲ有スルモ第一編第一章第二節第一款第二項第四參照所轄檢事ハ往往ニシテ是等ノ事件ノ發生シタルコトヲ知ラザルコトアルヘキヲ以テ裁判所其他ノ官廳檢事及ヒ公吏ハ檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ職務上知リタルトキハ之ヲ管轄檢事ニ通知スヘキモノトス(本法第一六條)

凡ソ時間勞力及ヒ費用ヲ節スルハ總テノ手續法ニ通スル大主義ナルモ非訟事件ニ於テ殊ニ手續ノ簡易ト迅速トヲ要スルコトハ既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ彼ノ調書ノ如キモ各審問毎ニ之ヲ作成セシメシムルニハ徒ニ勞費ヲ要シ事件ノ停滯ヲ來シ裁判所及ヒ關係人共ニ其煩ニ堪ヘサルヘシ故ニ必要ナル場合ニ限リ調書ヲ作成セシムルコトトシ唯證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニテハ裁判ヲ爲スニ重要ナル關係ヲ有シ且刑法上偽證罪ノ成立有無ニ關係アルヲ以テ此場合ニ限リ調書ヲ作成セシムルコトト爲セリ(本法第一四條)

第三項 證據調

前述セルカカ如ク證據調手續ハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナリ故ニ不干渉主義ヲ採用セル民事訴訟法ノ證明ノ責任ノ原則ハ非訟事件ニハ適用ス可カラザルモノトス何トナレハ絕對ノ眞實ヲ目的トスル職權主義ニ背反スルモノナレハナリ故ニ裁判所ハ總テ事實ノ探知ヲ職權ニ依リテ爲サザル可カラス從テ當事者カ證據方法ノ申出ヲ爲サザリシ爲メニ證據ナキモノトシテ其事實ノ存在ヲ非認スルコトヲ得ザルモノトス又非訟事件ニ於テハ總體的眞實ヲ目的トスルコトヲ推定ナルコトヲモ認メザルナリ

非訟事件ニ於テハ二個ノ形式的方法ヲ認メタリ人證及ヒ鑑定是レナリ

裁判所ハ事實ノ探知ノ方法ニ代ヘテ適當ナル證據調ヲ爲スコトヲ得蓋シ探知ノ方法ニ付テハ多クハ強制權ナキヲ以テ其方法ニシテ拒絕セラレタルトキハ勢ヒ強制ノ方法ヲ必要トスルカ爲メニ或ハ事實ノ存否ヲ正當ニ判斷スルニ付キ大ナル擔保ヲ得ルカ爲メニ形式的證據調ヲ必要トスルコトアルヘキヲ以テナリ然レトモ事實ノ確定ニ付キ形式的證據調ヲ選擇スルカ將タ事實ノ探知ヲ爲スカハ前述セシカ如ク全ク裁判所ノ自由ナリトス

入證及ヒ鑑定ニ付ラハ全ク民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス本法第一〇條

第一、入證 入證ニ付テハ民事訴訟法第二百八十九條乃至第三百二十一條ヲ準用ス然レドモ非訟事件ノ職權干渉主義及ヒ其他特別ノ規定ニ違背スルモノハ元ヨリ準用スヘキ限リニ非ス例之民事訴訟法ノ一般ノ原則ノミニ適用ス

〇六條第三一五條第三二〇條其他民事訴訟法ノ一般ノ原則ノミニ適用ス

〇六條第三一五條第三二〇條其他民事訴訟法ノ一般ノ原則ノミニ適用ス

第二、鑑定 鑑定ニ付テハ民事訴訟法第三百三十二條乃至第三百三十三條ヲ準用スヘキモノナルモ入證ニ關スル規定ト同シク非訟事件ノ職權干渉主義及ヒ特別ノ原則ニ背反スル規定ハ準用セラレザルモノトス例之人入證ニ關スル前述ノ規定ヲ除外第三二二條第三二四條第三項ニ依リ

非訟事件ニ於ケル證據調ノ手續トシテハ入證及ヒ鑑定ヲ除キテ他ニ證據方法ナキモ申立其他ノ手續ニ於テハ元ヨリ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ證據調手續ト其他ノ手續トヲ混同セザルニテ

本法第一四三條第五〇條第一六六條第一六七條第一七三條第一七四條第一七六條乃至第一八四條第

戸籍吏カ要式ヲ缺ク届書ヲ受理シタル效果

〇戸籍吏カ要式ヲ缺ク届書ヲ受理シタル效果

届書ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス然レドモ非訟事件ノ職權干渉主義及ヒ其他特別ノ規定ニ違背スルモノハ元ヨリ準用スヘキ限リニ非ス例之民事訴訟法ノ一般ノ原則ノミニ適用ス

〇戸籍吏カ要式ヲ缺ク届書ヲ受理シタル效果

届書ニ於テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス然レドモ非訟事件ノ職權干渉主義及ヒ其他特別ノ規定ニ違背スルモノハ元ヨリ準用スヘキ限リニ非ス例之民事訴訟法ノ一般ノ原則ノミニ適用ス

其效力如何此問題ニ關シ大審院ハ判決シテ曰ク隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出アルニ非ザレハ其效力ヲ生セザルコトハ實ニ民法第七百五十七條ニ於テ明ニ規定スル所ナリ然レドモ且其届出アラテ戸籍吏之ヲ受理シタルトキハ縱令届出手續ニ瑕疵アルニモ特別ノ明文アルニ非サレハ其届出ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス戸籍法第二百十八條ニハ届出人カ届書ニ自署スルコト能ハスシテ其名ヲ代書セシメタル場合ニ於テハ其事由ヲ附記スルコトヲ要スル旨規定シ而シテ同法第十六條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出申附カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレバ登記ヲ爲スコトヲ得スト規定シアラルヲ以テ若シ戸籍吏カ前掲第二百十八條ノ規定ニ違由セザル届書ヲ受理

シタル場合ニ於テハ其處分ノ失當ニ付テハ勿論ナレハ戶籍法第二百三條ニ依
リ抗告ノ理由トナルヘシト雖モ之カ爲メ届出ノ當然無効ニ歸スヘキコトハ民
法及ヒ戶籍法ニ特ニ規定スル所ナシ云々ト云ハ大體誤明也三十七條ニ明記セ
テ一月十日以前ニテハ其後ハ其後ハ其後ハ其後ハ其後ハ其後ハ其後ハ其後ハ其後
○戶籍上ノ氏名ヲ以テセル届出ハ身分登記簿並ニ戶籍簿ニハ虚偽ノ氏名ヲ
以テ其登録ヲ得而シテ後其名ニ於テ更ニ戶籍ニ關スル届出ヲ爲シタルトキハ
戶籍法第二百五條ヲ以テ問擬スヘキモノナルヤ否ヤ是レハ見疑ナキコトヲ
得タル所ナルカ大審院ハ前ノ身分登記ヲ無効ナルモノト爲シ隨テ後ノ所爲ハ
詐欺ノ届出タルコトヲ失ハストセリ其判決理由ニ曰ク原文ヲ見ルニ被告ハ
明治十八年三月十三日長野縣裁判所松本支廳ニ於テ徵兵忌避罪ニ因リ重禁
錮三月附加罰金三圓ニ處スル旨ノ關照判決ヲ受ケタルモノニシテ其執行ヲ免
レ且ツ處世上其身分ヲ昧マスノ必要アルヨリ明治二十一年十二月十六日被
告宇金次ハ病死シタル旨ノ虚偽ノ死亡届ヲ寄留地タル神奈川縣久良岐郡北方村
役場ニ届出テ世ニ存在セサルカ如ク裝ヒ澁谷新次郎ト變名シ來リ明治三十一

年十月十日己シハ父亡澁谷紹笠母ブシノ子ニシテ無籍ナルヲ以テ長野縣東筑
摩郡波多村乙五百六番地ニ無籍ニ因ル一家創立ヲ爲シ旨ノ詐欺ノ届出ヲ該村
戶籍吏ニ提出シ就籍シタリ而シテ被告ハ小学校教員奉職上益々其身分ヲ昧マ
シ置クノ必要アルト同時ニ其實父常次郎ト戶籍上親子ノ關係ヲ保テ置クノ必
要上長野縣東筑摩郡波多村戶籍吏代理助役武居正彦ニ宛タル變名ナル澁谷新
次郎名義ノ詐欺ノ廢家届及同日附安藤常次郎ノ養子ト爲ル旨ノ詐欺ノ養子縁
組届書ヲ提出シタル事實ニシテ右廢家届及養子縁組届ヲ差出シタル所爲ハ戶
籍法違反ナルヤ否ヤハ即チ本件ニ於テ決セサルヘカラサル争點ナリトス依テ
按スルニ凡ソ身分登記ノ有效ナルカ爲メニハ常ニ必ラス合法ノ原因アルコト
ヲ要シ合法ノ原因ナキ身分登記ハ唯々形式上存在スルニ止マリ當事者ハ其身分
登記ノ目的タル身分ヲ取得セシムルノ效力ヲ生セサルヲ以テ當事者ハ其身分
ノ自分登記簿ニ登記セラレタルノ一事イミテ以テ實體上其身分ヲ取得シタル
モノナリトシ其身分ヲ稱シ其身分ニ件ヲ權利ヲ行使スルコトヲ得サルモノト
ス而シテ本件ニ在テ被告ハ安藤常次郎ノ實子タル同姓宇金次ニシテ被告カ終

始此身分ヲ有シタルモノナルコトハ前記判文ノ記載ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得ヘク虚偽ノ死亡届ヲ差出シ擅ニ澁谷新次郎ト變名シタルレハトテ是レカ爲メ安藤宇金次トシテハ被告ハ法律上其存在ヲ失ヒ更テハ新次ニ無籍ナル澁谷新次郎タル資格ヲ取得スヘキ理由ナキヲ以テ被告カ澁谷新次郎ノ名義ヲ以テ無籍ニ因ル一家創立ノ届出ヲ爲シ身分登記簿ニ之レヲ登記セシメタルコト原院認定ノ事實ノ如クナリトスルモ其登記ハ徹頭徹尾虚構ノ事實ヲ基礎トスル所ノ無効ノ原因ニ基クモノナレハ前記說明ノ如ク唯タ形式上存在スルニ止マリ被告ノ身分ヲ變更スルノ效力ナク被告ハ依然トシテ安藤常次郎ノ實子タル安藤宇金次ニシテ決シテ一家ノ戸主トシテハ澁谷新次郎ナル新ナル身分ヲ取得スルコトヲ得サルモノトハ隨テ被告ハ澁谷新次郎ノ名義ヲ以テ一家創立ノ届出ヲナシ其登記ヲ經タル理由トシテ公然澁谷新次郎ノ名稱ヲ唱ヘ安藤常次郎ト戸籍上何等關係ヲ有セタル單身戸主ナリトシテ動作スルノ既得權アリト主張スルコトヲ得サルモノト云云ト(大審院明治三十七年九月第一九四三號二月二十七日第一〇一號)澁谷新次郎(明治三十七年九月第一九四三號)

法學志林

第七卷 第一號
 一月十五日發行
 每月一回十五日發行
 定價一冊拾貳錢
 郵稅一冊拾錢
 十冊前金 郵稅共拾錢
 壹圓貳拾錢
 (第六十五號)

○新年ノ辭

最近判例批評(其二十一)

◎志林

因果連絡中斷ノ責任更新カ
 待合ノ憲法トノ關係ヲ論ス
 傾士判議ノ自家ノ見解
 討論批評及自家ノ見解

◎纂論

露國新手法(十二)

◎解疑

錯誤カ手形行爲ニ及ホス效力
 前戸主ノ配偶者ト實家ニ復籍シ
 タル前戸主ノ妹トノ相續順位

◎散錄

學國一致中毒
 如是我聞

◎判例

大審院新判決例 五十八件

◎雜報

明治三十八年ト迎フ○皇孫御命名○東京地方裁判所事件總數○好訴狂○最近兩年間ニ於ケル火災ノ統計○妙ナ罪罰取財○裁判所支部廢止ト區裁判所ノ權限擴張○軍人軍屬ノ刑事裁判管轄○法令ノ公布

◎記事

信濃支部總會○大學部演習科ノ開始○學生忘年會○校友茶話會暨忘年會○實業懇話會○校友及異動○校友死亡○圖書購人費資金寄附者○寄贈書目

法政大學

- 梅 謙次郎 法學博士
- 梅 謙次郎 法學博士
- 井田 謙次郎 法學博士
- 田部 謙次郎 法學博士
- 中村 謙次郎 法學博士
- 美濃 謙次郎 法學博士
- 勝本 謙次郎 法學博士
- 佐竹 謙次郎 法學博士
- 松本 謙次郎 法學博士
- 佐藤 謙次郎 法學博士
- 掛本 謙次郎 法學博士
- 水去 謙次郎 法學博士
- 公堂 謙次郎 法學博士
- 史人 謙次郎 法學博士

○廣告

法政速成科講義錄

每月二回發行
第一號 二月五日發行

○清國公使楊樞氏頌辭
○總理梅博士肖像
○揚樞氏上奏文
○譯者 弁

○法學通論及民法
○國法總論
○國際法
○經濟地
○政治地

法學博士 梅 謙次郎
法學博士 岡田 克太郎
法學博士 中村 朝太郎
法學士 野村 覺次郎
法學士 山崎 龍一
法學士 野村 龍一

○雜錄 ○法政速成科規則 ○法政大學沿革略 ○日本講義錄總以漢文記述法律政治經濟等之學者也 ○校外生月謝金五十錢 ○一冊代金三十錢

二月 法政大學

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月四回七日八日十八日二十八日發行

明治三十八年二月四日印刷
明治三十八年二月七日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區丸根町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保町十一番地 金子活版所

發行所 東京市麹町區富見町六丁目十六番地

發行所 司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)